



# 環境報告書

EXEDY Corporation Environmental Report

2017



## 安全衛生・環境方針

### [基本方針]

安全衛生・環境の確保は、企業活動の基盤であり社会的責任(CSR)です。  
安全最優先、健康増進、地球にやさしい環境づくりに取り組みます。

### [安全衛生活動方針]

1. 「安全なくして企業の存続なし」、ゼロ災害・ゼロ疾病に向けて、安全衛生に関する法令と、社内ルールを順守します。
2. 設備・作業環境などのピカピカ・5S5T<sup>\*1</sup>活動を継続的に実施します。
3. 健康で快適な職場づくりを通じて、業務に関連する疾病を予防し、心身の健康を維持・増進します。
4. 職場のあらゆる危険・有害要因を排除する活動を、F2Fのコミュニケーションと2-2-2<sup>\*2</sup>のスピードで継続的に実施します。
5. 異常発生時は「止める、呼ぶ、待つ」を徹底します。

### [環境活動方針]

1. 法令や利害関係者の要求事項を順守し、環境汚染を防止します。
2. 生産、製品、サービスの分野において、環境マネジメントシステムを実行し、環境負荷低減に向けて継続的に改善します。
3. 省エネ・省資源を徹底し、使用と排出を最小限にします。
4. 地域・社会と連携し、環境改善・自然保護活動へ積極的に参加・支援します。

\*1 5S5T: 5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰) 5定(定位、定量、定時、定姿、定質)の略

\*2 2-2-2: 2時間、2日、2週間など2の単位で納期を守るようにしたルール

制定 2017年4月1日

代表取締役社長 久川秀仁

# CONTENTS

安全衛生・環境方針	1
会社概要	2
環境マネジメント	3～4
生産・製品における環境保全活動	5～6
生産・製品における環境負荷低減への取組み実施例	7～8
社会との共生	9～10

### ■対象期間

(2016年4月1日～2017年3月31日)を対象としていますが、この期間外であっても、必要と判断した事象も含めて報告しています。

### ■対象組織

国内事業所の本社・上野事業所・川越工場・広島工場を対象範囲としています。また、関係会社の活動状況についても一部紹介しています。

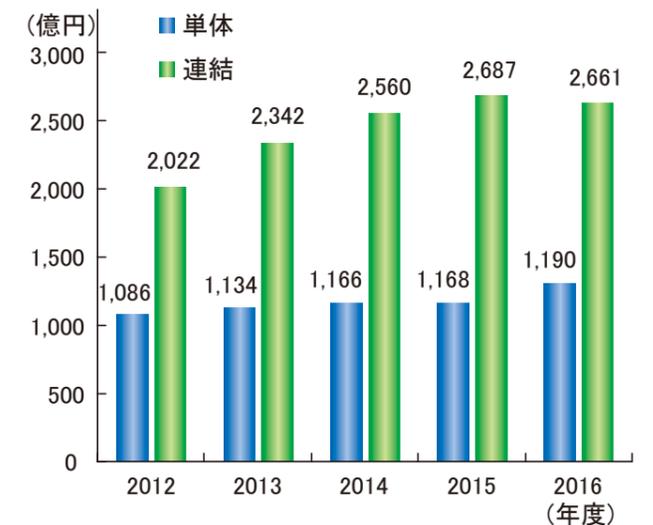
### ■編集方針

社会との共生では、社会貢献等の取り組み事例について紹介しています。

本報告書の作成に当たっては、環境省の「環境報告書ガイドライン」を参考にしています。

## 会社概要

商号 株式会社エクセディ  
 英文社名 EXEDY Corporation  
 設立 1950年(昭和25年)7月1日  
 資本金 8,284百万円  
 代表取締役社長 久川秀仁  
 グループ社員数 18,039名  
 売上高推移 (数値は2017年3月31日現在)



国内事業所 本社 (大阪府寝屋川市)  
 上野事業所 (三重県伊賀市)  
 川越工場 (埼玉県川越市)  
 広島工場 (広島県東広島市)

### 連結対象会社

国内 北海道・岡山等 計13社  
 海外 欧米・アジア等 計31社  
 総数 44社(持分法適用会社含む)

## 主要製品

AT事業：自動変速装置部品



MT事業：手動変速装置部品



TS事業：建設機械・産業車両用製品



2輪事業：2輪車用クラッチ



表紙の写真はエクセディグループの上野事業所に2016年度新設されたTC A工場です。最新の省エネ空調設備と太陽光発電パネルを備え、生産活動を行っています。当社は企業活動の全ての面において、今後も地球に優しい環境づくりに努めて参ります。

# 環境マネジメント

## ■ 環境マネジメント体制

エクセディでは、全社環境担当責任者を委員長とするEGC委員会(EGC: EXEDY Global Clean)を中心にマネジメント体制を構築し、全社環境方針の策定や活動状況の管理を実施しています。



## ■ 環境会計 ～環境活動への費用・投資～

環境に対する取り組みを効果的に推進していくために、環境保全コストとその活動により得られた環境保全効果と経済効果を表しています。

### 2016年度 環境保全コスト

(単位:百万円)

コスト項目	投資	費用	主な取り組み内容
公害防止	0	58	測定費用(水質、大気、廃棄物)
地球環境保全	282	2	太陽光発電パネル、照明LED化
資源循環	0	128	廃棄物処理・リサイクル処理
管理活動	0	9	環境月間イベント、ISO定期審査
研究活動	0	204	低燃費化製品・再資源化材料の開発、軽量化
社会活動	0	6	事業所内の緑化、環境教育
合計	282	407	
総計		689	

## 2016年度実績と2017年度目標

項目	2016年度		2017年度
	目標	実績	目標
省エネ活動 省エネ法による 原単位*1:前年度比1%レス	原単位: 54.8トン-CO <sub>2</sub> /億円	原単位: 前年度比1.5%増 56.2トン-CO <sub>2</sub> /億円	原単位: 55.6トン-CO <sub>2</sub> /億円
3R*2の推進 「ゼロエミッション」	原単位: 2.78トン/億円	生産に伴う廃棄物 原単位:前年度比10%減 2.52トン/億円	原単位: 2.49トン/億円
車両の燃費向上に 貢献する製品開発	低燃費製品品揃え開発	量産納入済み	低燃費製品品揃え開発
環境負荷物質の 削減・廃止および管理	PRTR法*3に基づく管理 製品環境法規の順守 製品化学物質管理体制強化	行政及び 部工会*4へ報告 緊急対応訓練の実施 協力企業説明会の実施	PRTR法*3に基づく 管理 製品環境法規の順守 製品化学物質管理体制強化

\*1 原単位: CO<sub>2</sub>排出量/売上高  
\*2 3R: リデュース・リユース・リサイクル  
\*3 PRTR法: 化学物質の排出・移動量届出制度  
\*4 部工会: 日本自動車部品工業会

## 環境保全に伴う経済効果と物量効果

### < 経済効果 >

(単位:百万円)

効果項目	2014年度	2015年度	2016年度
CO <sub>2</sub> 排出量の低減	68	64	0
廃棄物処理費用の低減	4	0	75
有価物の売却	706	383	463
合計	778	447	538

### < 物量効果 >

効果項目	2014年度	2015年度	2016年度
産業廃棄物排出量*5	65トン	73トン	44トン
CO <sub>2</sub> 排出量	67.6千トン-CO <sub>2</sub>	64.6千トン-CO <sub>2</sub>	66.8千トン-CO <sub>2</sub>

\*5 業廃棄物排出量は、リサイクル分除く

## ■ 環境監査 (ISO14001)

定期内部監査、外部機関による審査の2段階による監査及び審査を実施しています。

### ISO14001定期審査

2017年2月13日～17日の5日間にわたり、DQS JapanによるISO14001更新審査が行われました。今回の審査では「ピカピカ活動」「省エネ活動」について高く評価されました。今回指摘を受けた項目については、各部門へ水平展開し、さらなるシステムの改善を進めます。

### << 審査及び監査結果 >>

年度		重大な不適合	軽微な不適合	改善の機会
2016	定期審査 (2017/2月)	0件	0件	5件
	定期内部監査 (2016/10月)	0件	4件	29件

# 生産・製品における環境保全活動

～最少エネルギーと最少材料で～

エネルギー	購入材料	水資源
<p>電 力: 140,775 千 kWh</p> <p>灯 油: 195kℓ</p> <p>ガソリン: 90kℓ</p> <p>軽 油: 166kℓ</p> <p>都市ガス: 82 千m<sup>3</sup></p> <p>L P G: 607 トン</p>	<p>鋼 材: 125,967 トン</p> <p>鑄 物: 12,751 トン</p> <p>鍛 造: 15,317 トン</p> <p>摩 擦 材: 12.1 百万枚</p>	<p>上 水: 120 千m<sup>3</sup></p> <p>工業用水: 138 千m<sup>3</sup></p>

プレスライン      鑄造ライン      加工ライン      組立ライン



製品  
年間出荷台数:  
1,528万台



スクラップ(再資源)  
社内リサイクル:  
12,397トン

Output

## 事業所別排出量(2016年度)

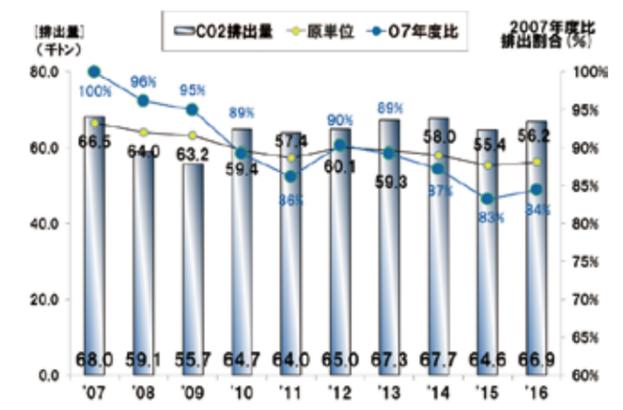
事業所名 ※1	電力量 [千Kwh]	燃料使用量 [トン-CO <sub>2</sub> ]	CO <sub>2</sub> 排出量 [トン-CO <sub>2</sub> ]	廃棄物処理[トン]	
				再資源化	埋立処分
本社	32,963	1,084	16,017	31,753	37
上野	104,872	1,854	49,361	4,089	5
川越	1,509	182	866	79	1
広島	1,431	4	652	467	1
合計	140,775	3,124	66,896	36,388	44

※1 営業所は本社へ加算  
※2 原単位: CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量÷売上高

CO<sub>2</sub>排出量  
原単位  
(2007年度比)※2  
**15%削減**

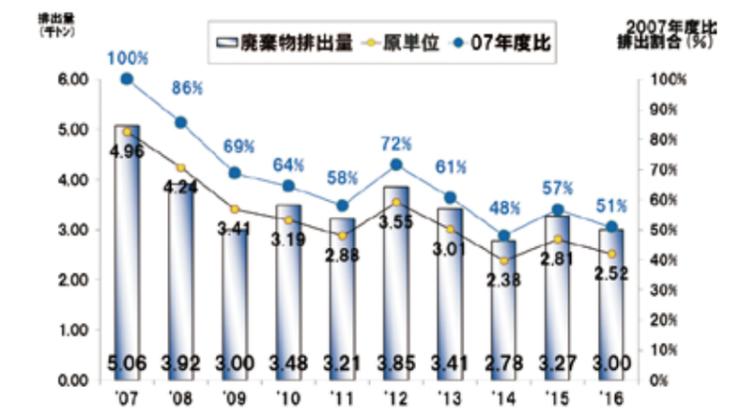
廃棄物排出量  
原単位  
(2007年度比)※2  
**49%削減**

## ※3 CO<sub>2</sub> 排出量原単位推移 ※4 (2007年度基点)



※3 (社) 日本自動車部品工業会 第7次「環境自主行動計画」に則った活動  
※4 電気のコ<sub>2</sub>換算係数の出典: (社) 日本自動車部品工業会 0.453トン-CO<sub>2</sub>/kWh

## 産業廃棄物排出量と原単位推移 (2007年度基点)



# 生産・製品における環境負荷低減への取組み 実施例(2016年度)

## TC A工場新設



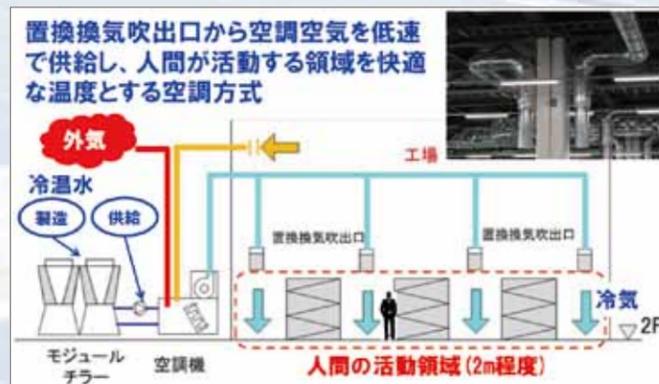
TC A工場 (総面積: 18,504㎡ 総事業費 61億円)

2016年9月15日、上野事業所にTC A工場を竣工しました。  
 この工場ではグローバルAT事業のマザー工場として、究極の『自動化・高速ライン』SSC(シンプル・スリム・コンパクト)ドリームラインをはじめとする先進的な生産設備の導入、国内・海外メーカーへ納入する新規受注拡大への対応、物流拠点の整備など、様々な取組を行っております。  
 環境への配慮がなされた工場でもあり、屋根に敷き詰められた太陽電池パネルには615Kwの発電能力があります。(一般家庭に換算すると約166世帯分\*)  
 工場内空調には置換空調を採用しており、冷暖房の対象を人間の活動領域(床から高さ2m程度まで)の範囲とすることで、少ないエネルギーで快適な温度を保つことができます。  
 また、工場内と屋外の気圧差を生じさせることにより、工場内へのコンタミ(異物)混入による品質不良を防止するなど、環境、人、製品、すべてにやさしい工場づくりに貢献しています。

\*電気事業連合会発行「原子力・エネルギー」図面集 1世帯当たりの電力消費量より換算



TC A工場屋根の太陽電池パネル



置換空調のしくみ

## 緑 鑄造工程での廃棄物削減活動

上野事業所で鑄造を行っているPS工場では鑄造に伴い発生する廃棄物を削減するため、鑄物に付着した砂を分離するハンガーショット工程に磁選機を導入しました。  
 これまでは砂、ショットに使われる鉄球がともに混ざった状態で排出されていたため、多くの廃棄物が発生していましたが、磁選機の導入により、砂と鉄分を分離し、資源として売却・リサイクルできるようになりました。鉄分を除去した砂は処理業者にて再生鑄物砂として、再資源化されています。



ショット工程に導入された磁選機



トライウォール  
スチールパレット

## 緑 物流工程での廃棄物削減活動

本社 M&T生産管理部では物流改善の一環として、梱包材のひとつであるトライウォールのリユースや、木製パレットをスチール製に切り替える活動を推進しています。  
 海外から納品されたトライウォールを再度出荷時に活用することで、コスト面での改善のみならず、廃棄物削減にも効果を上げています。また、パレットをスチール製に切り替えることで、使用済のものを売却し再資源化することが可能になりました。



## 緑 工場空調改善による温暖化防止・作業環境改善

本社 DS工場・TM工場では空調改善として、老朽化していた空調設備を入れ替えるとともに、空調用ダクトを改善し、作業環境の向上に取り組みました。  
 空調設備の冷媒を変えることで、従来に比べオゾン破壊係数はゼロとなり、環境保全にも貢献しています。  
 また、ダクトの配置を見直し、空調台数を増やさず作業スペースの温度を下げ、作業員へ涼しい風を送るよう改善しました。平均温度は4.6度下がり、快適に作業ができるようになったとの声をいただいております。



ダクト改善された作業スペース  
(作業スペースに涼風が行き渡る)

# 社会との共生

～歩調をあわせて環境・社会貢献活動を～

深刻化する地球環境において、生産活動に伴う環境負荷も高まり、従業員一人ひとりが環境問題に対する認識を一層高める必要があります。また良き企業市民であるために、地域社会への継続的貢献は不可欠です。エクセディグループでは各社の状況に則した活動を展開しています。

## 🌱 エクセディ エコ 設立

エクセディ電設では、「究極のエコ野菜工場」へのチャレンジとして、2016年6月にエクセディエコを設立しました。エクセディエコでは太陽光発電、LED等を活用して光合成の最適環境を作り出し、フリルレタス・トマト等の栽培を行っております。

「安全・安心の野菜作り」をテーマに、太陽光発電の活用、障がい者の社会参画の実現を目指す姿を観せる工場として、同様の施設が全国に広がるきっかけになりたいと考えています。



## 🌱 緊急時・災害時の備え



エクセディ(本社)にて、2016年11月に枚方寝屋川消防組合が、化学物質の漏えいを想定した特殊災害訓練を実施しました。当社の従業員も軽度被災者として参加し、緊迫した雰囲気の中訓練が行われました。

また、緊急時・災害時に一人でも多くの命を救いたいとの思いで、2012年度より全従業員を対象に普通救命講習を行っており、これまでの講習受講者はのべ600名にのぼります。

今後も地域との連携を大切にしながら、緊急時・災害時の対策に取り組んでまいります。

～社会貢献情報～

## 🌱 事業所夏祭りの開催

エクセディでは、従業員・ご家族・地域の皆様楽しんでいただきたいとの思いから、2011年より本社・上野・川越工場にて夏祭りを開催しています。

各事業所ごとの特色あるイベント、飲食店のブース、職場対抗の綱引き大会など、多数の催しを開催しており、回を重ねるごとに参加者も増え、盛況ぶりを増しています。



## 🌱 協豊会 委員長賞受賞

2017年3月、協豊会安全衛生委員会より、安全衛生活動に優れた会社として委員長賞を受賞しました。



## 🌱 グリーン調達説明会 開催

2017年1月、グリーン調達説明会を開催しました。協力企業様より98名が参加され、製品化学物質管理体制の強化に協力をお願いしました。

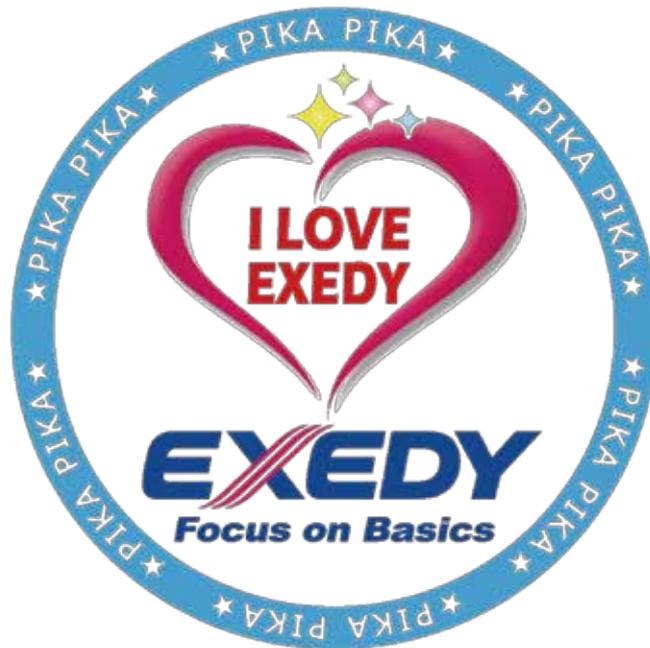


## 🌱 地域貢献活動 (美化活動、植樹の実施)



エクセディは、エクセディワーカーズコミュニティとともに、労使一体となった環境活動に取り組んでいます。

クリーンキャンペーン(会社周辺の美化および植樹)、クリーンリバー寝屋川などの活動へ、社員・ご家族・海外技能実習生などのメンバーが参加しました。



# 株式会社エクセディ

〒572-8570 大阪府寝屋川市木田元宮1丁目1番1号

お問い合わせ先：管理本部 安全衛生環境部 環境・健康管理チーム

編集責任者 大迫 修

作成者 鎌田 由香 野見山 房夫 牛野 美穂 前本 野歩

TEL.072-824-1009 FAX.072-822-4145

発行：2017年4月

本誌はエクセディホームページ上でもご覧いただけます。

<http://www.exedy.com>



このカタログ印刷は環境にやさしい  
植物性大豆インキを使用しています。



この印刷物に使用している用紙は、  
森を元気にするための間伐と間伐材の  
有効活用に役立ちます。

2017.4. 300 594 Printed in Japan